

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	オンライン砺波B				公表日	令和8年3月10日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・机の配置等工夫してスペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・学習・マイクラ・ボードゲーム・バランスボールやダンス・読書・おやつ等、活動内容によって場所を決めている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・毎日清掃・消毒チェックリストの基づいた清掃・消毒を行っている。 ・児童が動きやすく、分かりやすい動線ができています。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・気持ちが乱れた時や、体調不良の際に利用する静養室を用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・毎日ミーティングを実施している。そのミーティングでは、業務改善に向けた議題も扱っている。	・書式にまとめる等しっかりしたPDCA サイクルにはなっていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・評価表により保護者等の意向等を把握しており、業務改善に生かしている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎日のミーティングで職員から業務改善にかかわる問題提起や提案をする機会がある。 ・事故報告やヒヤリハットがあった際、ミーティングで再発防止のための業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・現在第三者による外部評価は行われていないが、客観的な評価を得ることは必要だと思う。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・年間計画に法人内で行う研修予定を立てている。また、県や砺波圏域の研修には積極的に参加している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・計画更新時に職員全員による中間評価会議を行い、計画の進捗状況、課題を出し合っており、次の計画に生かしている。	・中等度知的障害児に対するアセスメントをもっと細かくすることで、更に客観的に分析できると思われる。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・原案会議には職員全員が参加するようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・支援記録やミーティングに行う前日の振り返りの様式が、個別支援計画を反映させたものになっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・支援記録にチェック項目を設けて、行動観察の結果を記録しやすくしている。	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・「本人支援」「家族支援」「移行支援」を計画に盛り込んでおり、スタッフが支援をしやすいように具体的な支援内容を設定している。	・「地域支援・地域連携」の重要性は理解しているが、具体的な支援内容まで決め切れていない。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・定期的に見直しを行っている。 ・アナログ時計の読み取りの練習は、児童の習得度を確認しながらスモールステップで取り組んでいる。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・個別支援計画の具体的な目標毎に個別活動や集団活動を組み合わせさせて支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・ミーティングにて確認を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・翌日のミーティングにて振り返りを行っている。	・帰りの送迎から戻る時間が遅いため、その日のうちに行うことは難しい。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・子ども毎に個別支援計画の目標や支援内容を意識した支援記録の様式を作成している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
関係機関や保護	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		・その日のおやつを食べるか食べないかは児童自身が決めている。 ・月に1度の特別おやつは2～3種類の中から選んでもらう方法にしている。 ・事業所内のルールは、スタッフが作って守らせるのではなく、わくわくタイムで児童の意見を聞いたり、話し合って作るようにしている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		・送迎の際などに連絡事項などあれば確認し、連携をとるようにしている。 ・1学期初めに利用児童が通学する小学校を訪問し教頭と利用児童の情報交換及び送迎対応等について打ち合わせをしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			・当事業所は、小学2年生以上の児童が利用を始める場合がほとんどであるため、就学前に利用していた保育園等との情報共有をする機会はない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			・当事業所から障害福祉サービス事業所へ移行した児童はいない。

護者との連携	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○		・月一回のゲームイベントに、地域の他の子どもも受け入れている。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。		○		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		○		・送迎の際やLINEで子どもの様子を保護者に細かく伝えている。保護者から学校や家庭での様子を伝えて頂くこともある。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		・月1回の親子親子参加のイベントがある。その際、スタッフの児童に対する声掛けや対応を保護者に見せる(モデリング)ことによるペアトレを行っている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		○		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		○		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		○		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		○		
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		・月1回、兄弟参加が可能なゲームイベントを行っている。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		○		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。		○		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		○		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		○		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・月1回のゲームイベントに利用児童以外の児童(親子)も参加が可能。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		○		
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		○	・法人内の複数の事業所の委員によるBCP対策委員会を定期的に開催している。その委員会で、年間を通じて避難訓練を企画し、各事業所で実施している。	・当事業所のBCPの内容について、保護者に伝えきれていない。

非常時等の対応	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○			
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・法人内の複数の事業所の委員による安全対策委員会を定期的に開催している。その委員会で、年間を通じて安全管理に必要な研修や訓練を企画し、各事業所で実施している。また、安全管理に必要な備品を揃えるなど改善に努めている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・毎日、ミーティングの冒頭に「心理的虐待・不適切な関わりチェックリスト」を読み上げている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		・契約時に保護者に対し身体拘束の方針について文書と口頭で説明した上で、同意書を頂いている。	